

岡山県感染症週報 2012 年 第 36 週 (9 月 3 日～9 月 9 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症警報』発令中です。

◆2012 年 第 36 週 (9/3～9/9) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第 28 週 5 類感染症 風しん 1 名 (20 代 男)
- 第 34 週 2 類感染症 結核 1 名 (30 代 女)
- 第 35 週 2 類感染症 結核 3 名 (10 代 女 1 名、20 代 男 2 名)
5 類感染症 後天性免疫不全症候群 1 名 (50 代 男)
- 第 36 週 2 類感染症 結核 3 名 (20 代 男 1 名、60 代 男 1 名、80 代 女 1 名)
3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 4 名
(O157: 中学生 男 1 名、高校生 女 1 名、20 代 男 1 名、
型別不能: 30 代 女 1 名)
- 4 類感染症 レジオネラ症 1 名 (70 代 男)

■定点把握感染症の発生状況

- RS ウイルス感染症は、前週よりわずかに増加しました。

【速報 第 37 週】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O26: 小学生 男) の発生がありました。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 36 週は 4 名の発生がありました。いずれも散発事例と思われます。2012 年第 1～36 週までの累計報告数は 141 名になりました。ひきつづき岡山県は「**腸管出血性大腸菌感染症警報**」を県下全域に発令し、より一層の注意を呼びかけています。
例年、8 月をピークとして7月中旬から9月中旬にかけて患者発生が多く見られ、今後も予防対策を行うことが重要です。症状や予防法など、詳しくは岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症警報発令中!](#)』をご覧ください。
2. **RSウイルス感染症**の定点あたり患者数は、前週よりわずかに増加しました (定点あたり 0.19 → 0.24 人)。
RS ウイルス感染症は、冬を中心に患者が増加する感染症であり、例年 12 月か翌年 1 月に流行のピークを迎えます。しかし、全国の感染症発生動向調査から、近年流行の立ち上がりが早まってきていると推察されており、2012 年は、第 31 週 (8 月上旬) 以降、これまでで最も患者増加の立ち上がりが早かった 2011 年の報告数を上まわっています。
岡山県においても今後の動向に注意が必要です。
([国立感染症研究所 感染症の話「RSウイルス感染症」](#)、[全国 RS ウイルス感染症グラフ](#))
3. **風しん**は、1 名の報告がありました。7 月に発生した風しんが疑われる症例について、今週、検査診断で患者と確定したため、岡山県における 2012 年の風しん患者は、6 名になりました。
全国統計では、8 月 30 日～9 月 5 日の一週間に 65 名の届出があり、2012 年の累計報告数は 9 月 5 日までに 1,419 名報告されています。全数報告対象疾患になった 2008 年以降、最も発生が多く、昨年 1 年間の累積報告数 (371 例) と比較して、3.8 倍になっています。地域別では、近畿地方 (特に大阪府、兵庫県) ・関東地方 (特に東京都) に加え、東海地方 (愛知県・三重県) でも届出が増加しています。
全国では 4 月頃から患者増加が始まり、依然として流行が継続しています。今後も動向に注意が必要です。
([全国風しん発生動向調査](#) [国立感染症研究 HP](#)、[岡山県感染症情報センター HP](#))

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡		RSウイルス感染症	➡	★
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★
感染性胃腸炎	➡	★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★	伝染性紅斑	➡	★
突発性発疹	➡	★★★	百日咳	➡	
ヘルパンギーナ	➡	★	流行性耳下腺炎	➡	★
急性出血性結膜炎	➡		流行性角結膜炎	➡	★
細菌性髄膜炎	➡		無菌性髄膜炎	➡	
マイコプラズマ肺炎	➡	★	クラミジア肺炎	➡	

【記号の説明】

前週からの推移：  : 2倍以上の減少  : 1.1~2倍未満の減少  : 1.1未満の増減
 : 1.1~2倍未満の増加  : 2倍以上の増加

発生状況： 空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い
 ※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

今週の注目感染症

1. ポリオの予防接種

【お知らせ】 2012(平成24)年9月から、不活化ポリオワクチンが導入されました。

【ポリオ(急性灰白髄炎)とは】

ポリオウイルスの感染によって、手や足に麻痺があらわれる急性運動性中枢神経感染症です。「小児麻痺」とも呼ばれます。成人が感染することもあります。乳幼児がかかることが多い病気です。

日本では、2000年にポリオ根絶を報告しましたが、世界には今でも流行している地域があり、渡航者などを介して感染はどの国にも広がる可能性があります。このため、ポリオの根絶に向けて、世界中でワクチンの接種が行われています。きちんとワクチンを接種し、ほとんどの人が免疫をもてば、海外でポリオが流行しても、国内での流行を防ぐことができます。

【ポリオワクチンについて】

平成24年9月1日からポリオワクチンは、生ポリオワクチンに代えて、不活化ポリオワクチンの定期接種が導入されました。

なお、ジフテリア・百日ぜき・破傷風・不活化ポリオワクチンの4種混合ワクチン定期予防接種は、2012(平成24)年11月の導入に向けて準備が進められています。

生ポリオワクチン	「生ワクチン」は、ポリオウイルスの病原性を弱めて作ったものです。ポリオに感染したときとほぼ同じ仕組みで免疫ができます。免疫をつける力が優れている一方で、まれにポリオにかかったときと同じ症状が出る場合があります。
不活化ポリオワクチン	「不活化ワクチン」は、ポリオウイルスを不活化し(=殺し)、免疫をつくるのに必要な成分を取り出して病原性を無くしてつくったものです。ウイルスとしての働きはないので、ポリオと同様の症状が出る副反応はありません。ただし、発熱などの副反応が生じることがあります。

【不活化ポリオワクチンの定期接種は次のように変わります】

1. 接種方法が変わります

生ポリオワクチンは経口接種(口から飲む)でしたが、不活化ポリオワクチンは皮下接種(皮下に注射)となります。

2. 不活化ポリオワクチンの接種方法は、3種混合ワクチンと同じです

不活化ポリオワクチンの対象年齢、接種期間、標準的な接種年齢は、これまでの3種混合ワクチン(DPT:ジフテリア・百日せき・破傷風)と同じです。

3. 4回(初回3回・追加1回)の接種が必要です

不活化ポリオワクチンは、初回接種として20日から56日までの間隔をおいて3回、また追加接種として初回接種終了後6ヶ月以上の間隔をおいて1回、合計4回の接種が必要です。

生ポリオワクチンを2012(平成24)年8月末までに1回接種した方は、2012(平成24)年9月以降に不活化ポリオワクチンを3回接種することになります。

※2012(平成24)年9月1日の導入時点では、4回目の接種は定期接種対象外です。

(現在、国内臨床試験を実施中のため、試験データが整い次第、追加接種として開始される予定です。)

4. 初回接種は生後3か月から12か月の間に受けましょう

標準的な初回接種(1~3回目)の接種年齢は、生後3か月から12か月です。

生後90か月(7歳6か月)に至るまでの間であれば、過去に生ポリオワクチンを受けそびれた方も、不活化ポリオワクチンの定期接種を受けていただくことが可能です。

5. 通年で接種できるようになります

生ポリオワクチンによる定期接種は、春・秋に集団接種を行う市町村がありましたが、不活化ポリオワクチン導入後は、多くの市町村で、医療機関での個別接種に変更される予定です。

詳しいスケジュールなどポリオワクチンに関する情報は、厚生労働省ホームページでご覧いただけます。

[厚生労働省ホームページ ポリオワクチン](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/) (<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/>)
また、ご不明な点は、お住まいの自治体の予防接種の担当部署にお問い合わせください。

保健所別報告患者数 2012年 36週 (2012/09/03～2012/09/09)

2012年9月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	13	0.24	6	0.43	4	0.36	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	4	0.07	2	0.14	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30	0.56	3	0.21	8	0.73	-	-	3	0.43	-	-	-	-	16	2.67
感染性胃腸炎	241	4.46	72	5.14	36	3.27	62	6.20	25	3.57	23	5.75	9	4.50	14	2.33
水痘	29	0.54	8	0.57	10	0.91	4	0.40	4	0.57	1	0.25	1	0.50	1	0.17
手足口病	6	0.11	3	0.21	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	2	0.33
伝染性紅斑	2	0.04	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	41	0.76	19	1.36	12	1.09	2	0.20	1	0.14	1	0.25	-	-	6	1.00
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	55	1.02	29	2.07	5	0.45	4	0.40	8	1.14	4	1.00	1	0.50	4	0.67
流行性耳下腺炎	20	0.37	7	0.50	2	0.18	7	0.70	4	0.57	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	0.50	1	0.20	5	1.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2012年 36週 (2012/09/03～2012/09/09)

2012年9月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	4	0.07	2	0.14	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30	0.56	3	0.21	8	0.73	-	-	3	0.43	-	-	-	-	16	2.67
感染性胃腸炎	241	4.46	72	5.14	36	3.27	62	6.20	25	3.57	23	5.75	9	4.50	14	2.33
水痘	29	0.54	8	0.57	10	0.91	4	0.40	4	0.57	1	0.25	1	0.50	1	0.17
手足口病	6	0.11	3	0.21	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	2	0.33
伝染性紅斑	2	0.04	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	55	1.02	29	2.07	5	0.45	4	0.40	8	1.14	4	1.00	1	0.50	4	0.67
流行性耳下腺炎	20	0.37	7	0.50	2	0.18	7	0.70	4	0.57	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	0.50	1	0.20	5	1.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2
を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2012年 第36週 2012/09/03～2012/09/09)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	13	3	7	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	4	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30	-	2	1	4	2	5	4	4	1	4	2	-	1
感染性胃腸炎	241	7	32	45	23	15	18	13	13	10	4	23	7	18
水痘	29	1	2	6	4	5	3	2	-	2	2	1	1	-
手足口病	6	-	1	-	1	2	1	-	-	-	-	1	-	-
伝染性紅斑	2	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-
突発性発疹	41	3	17	19	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	55	1	5	13	6	10	4	7	3	-	3	2	1	-
流行性耳下腺炎	20	-	-	1	4	5	-	2	1	2	2	-	2	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	3

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

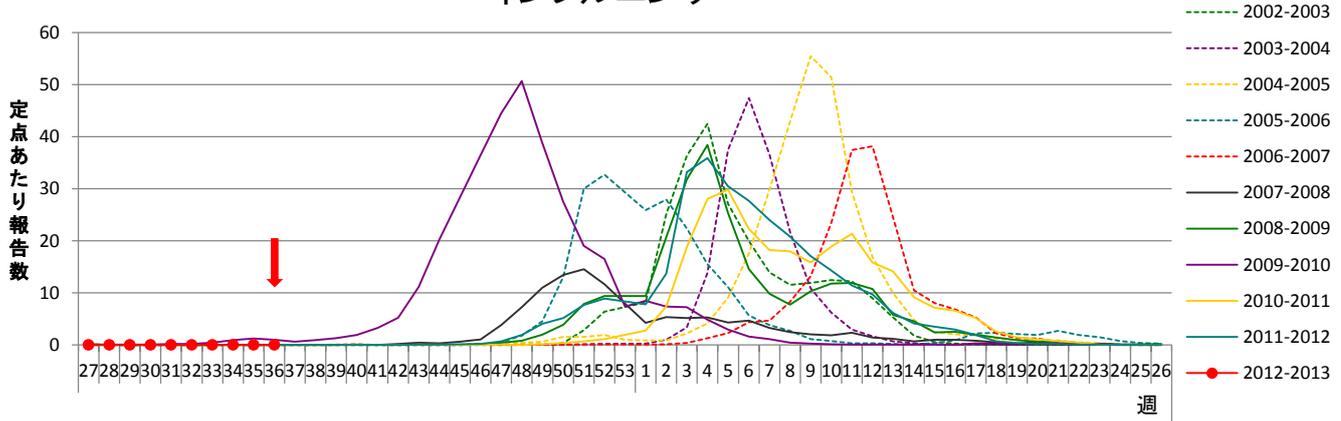
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

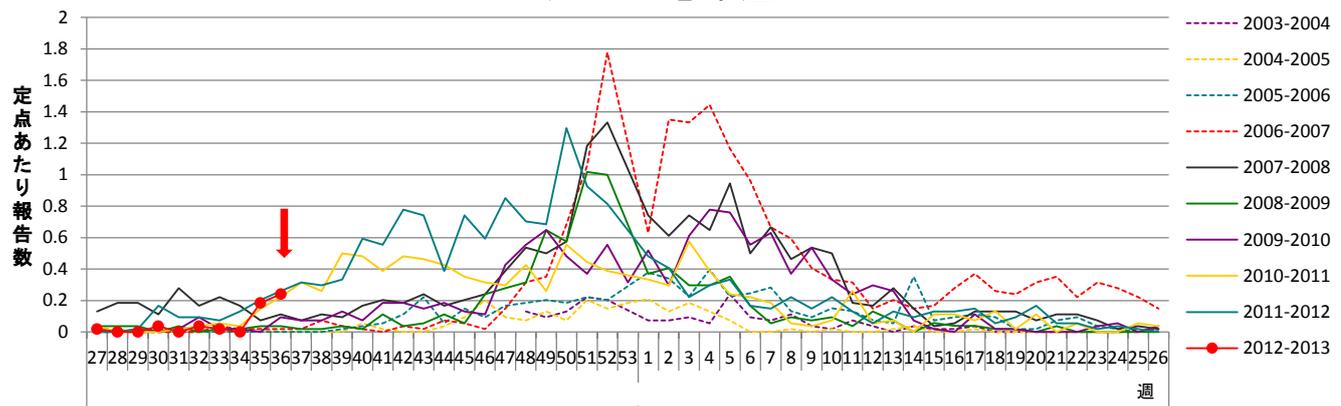
2012年 36週

分類	疾病名	2012			疾病名	2012			疾病名	2012		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	3	315	557	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	1	腸管出血性大腸菌感染症	2	139	67
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	2	3
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	2	3	デング熱	-	1	-	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	3	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	1
	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	1	16	37	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	10	11	ウイルス性肝炎*3	-	4	9	急性脳炎*4	-	1	3
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
	後天性免疫不全症候群	-	13	15	ジアルジア症	-	1	2	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	4	9	破傷風	-	1	3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	-	風しん	-	6	1
	麻しん	-	6	4		-	-	-		-	-	-

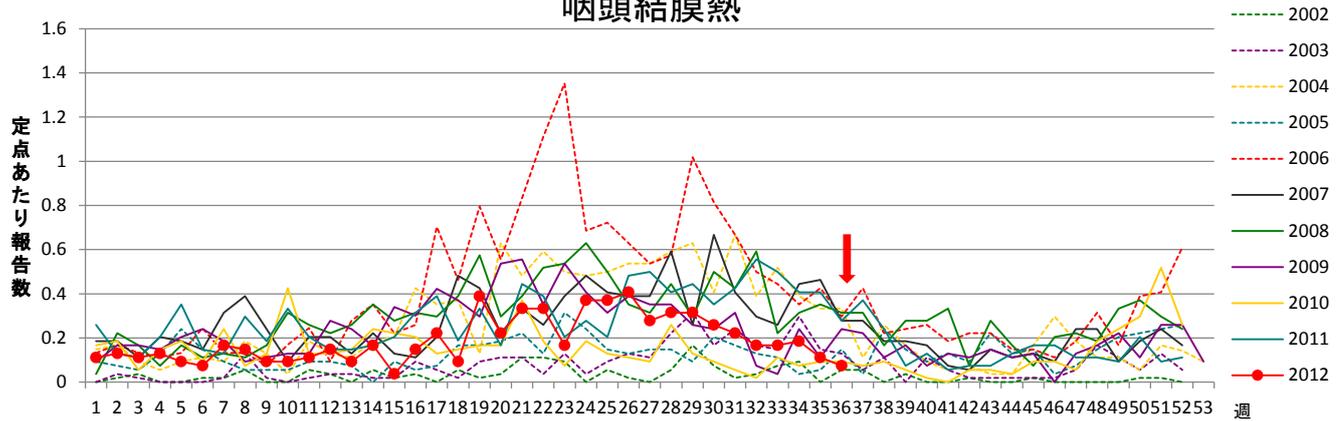
インフルエンザ



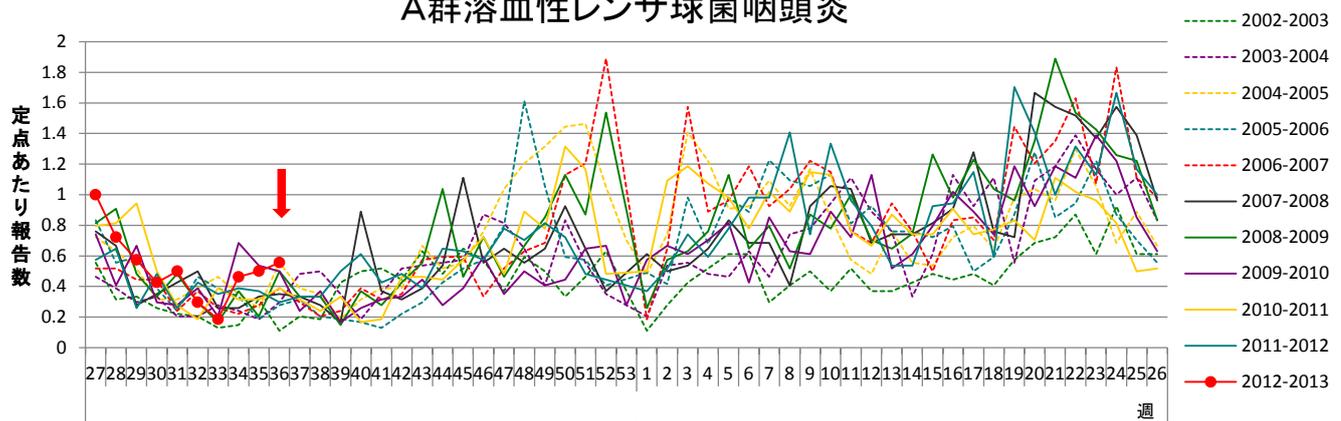
RSウイルス感染症



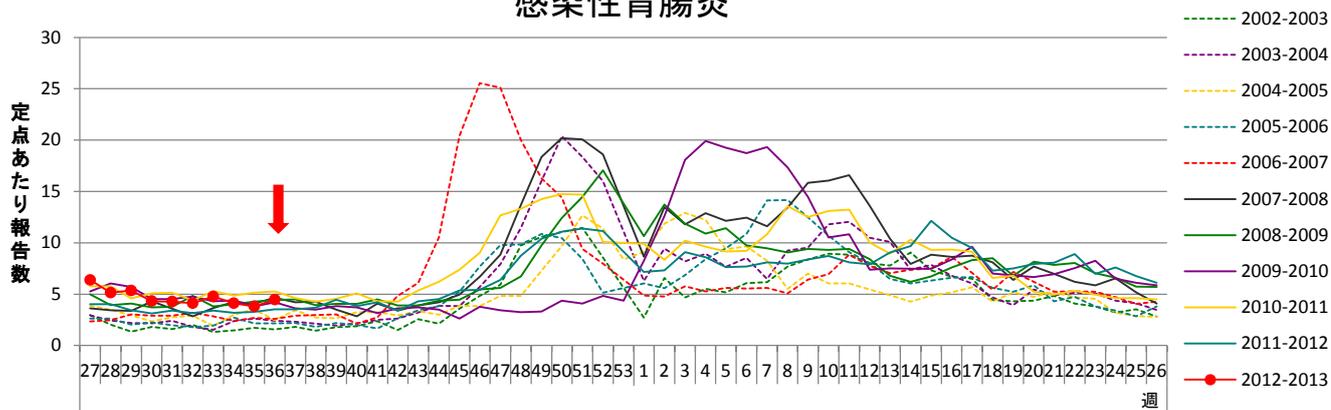
咽頭結膜熱



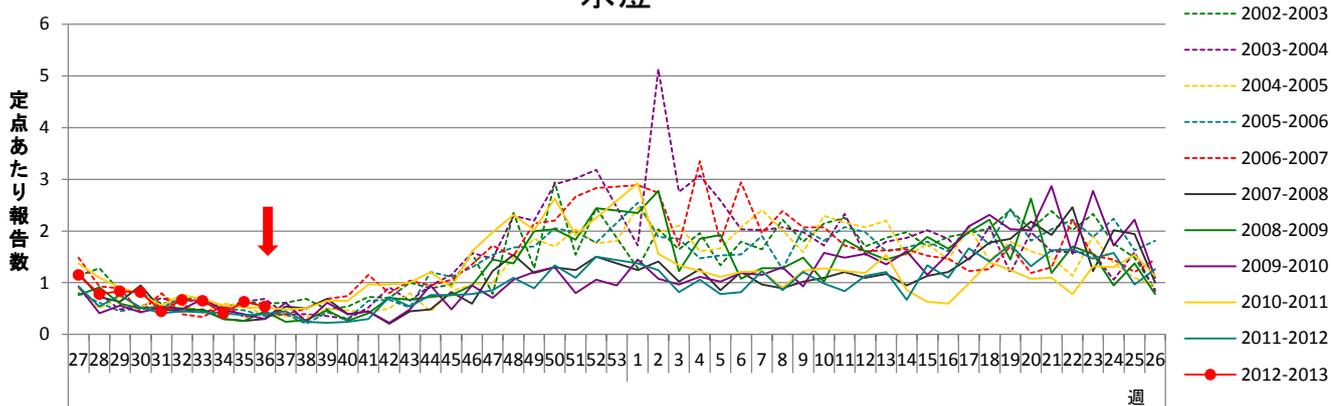
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



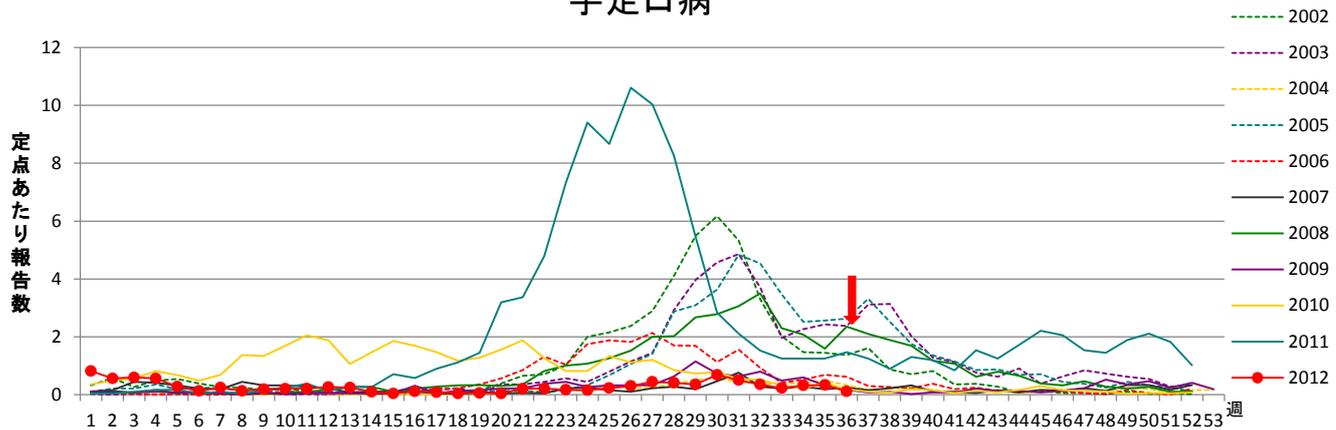
感染性胃腸炎



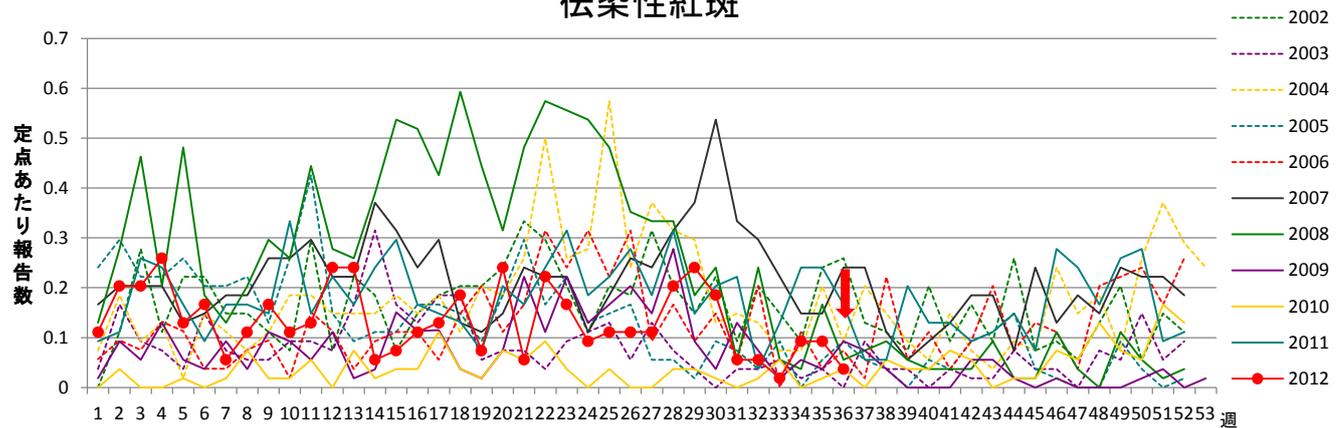
水痘



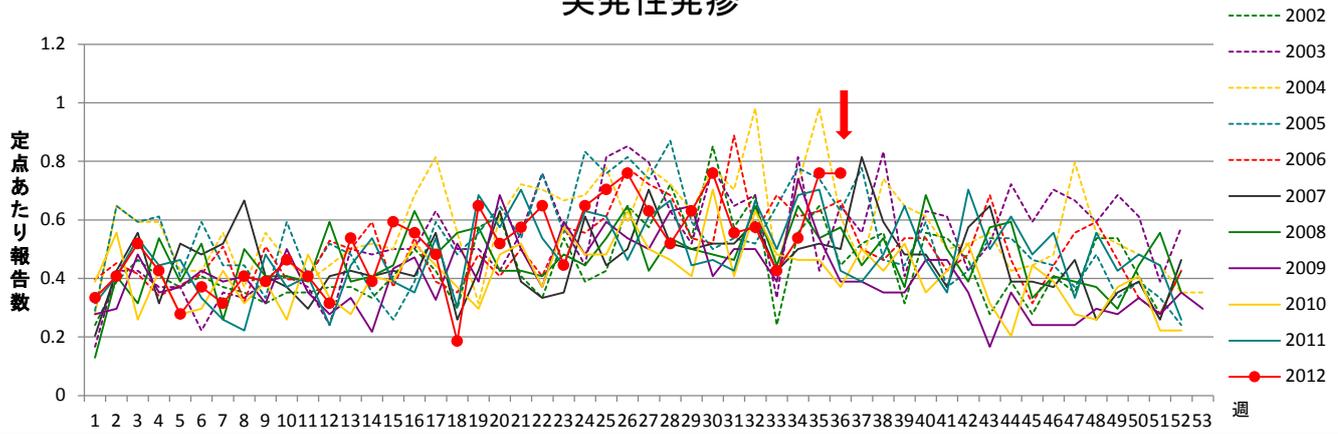
手足口病



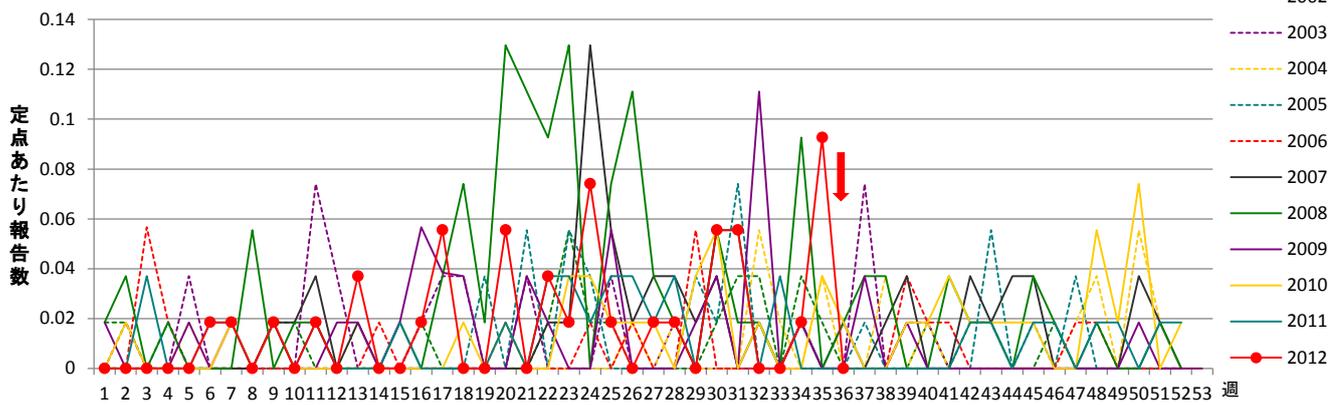
伝染性紅斑



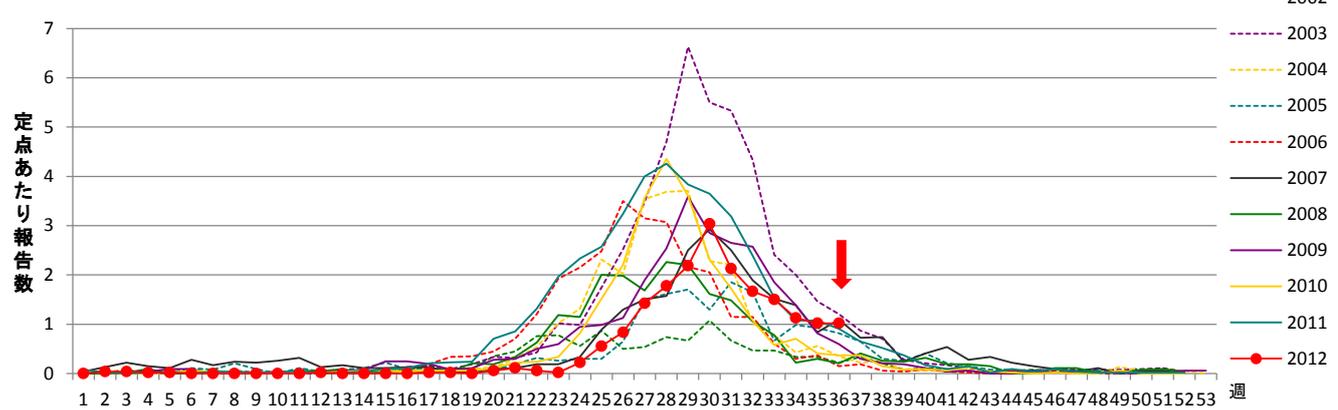
突発性発疹



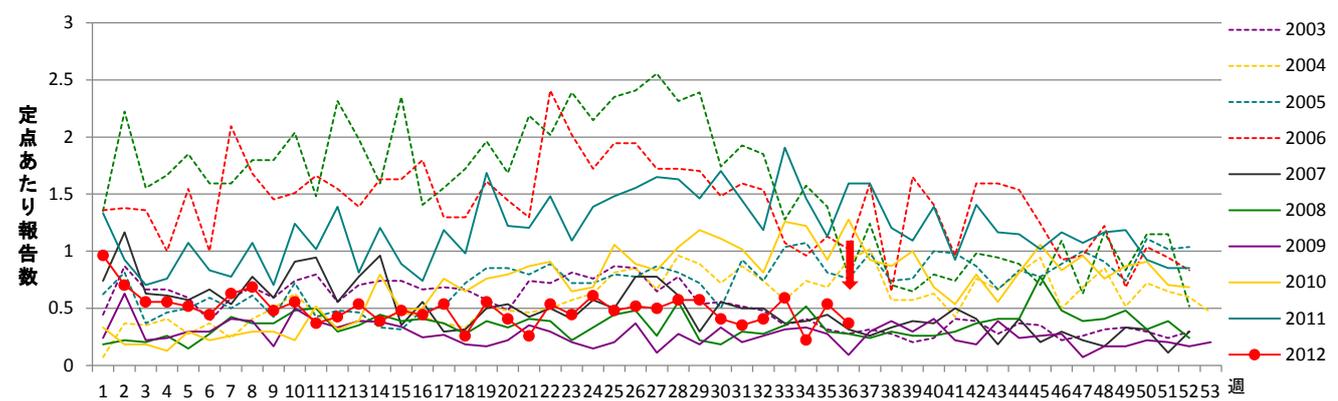
百日咳



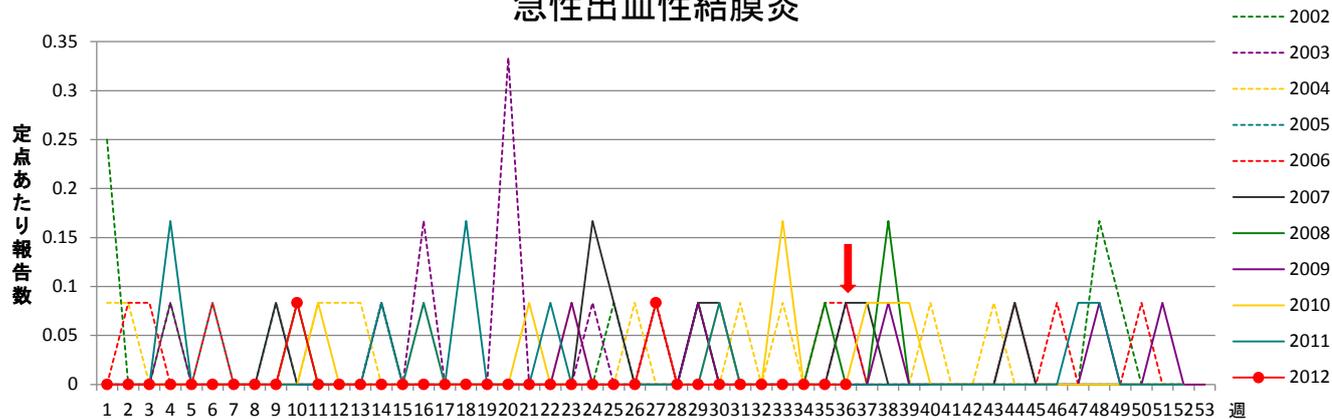
ヘルパンギーナ



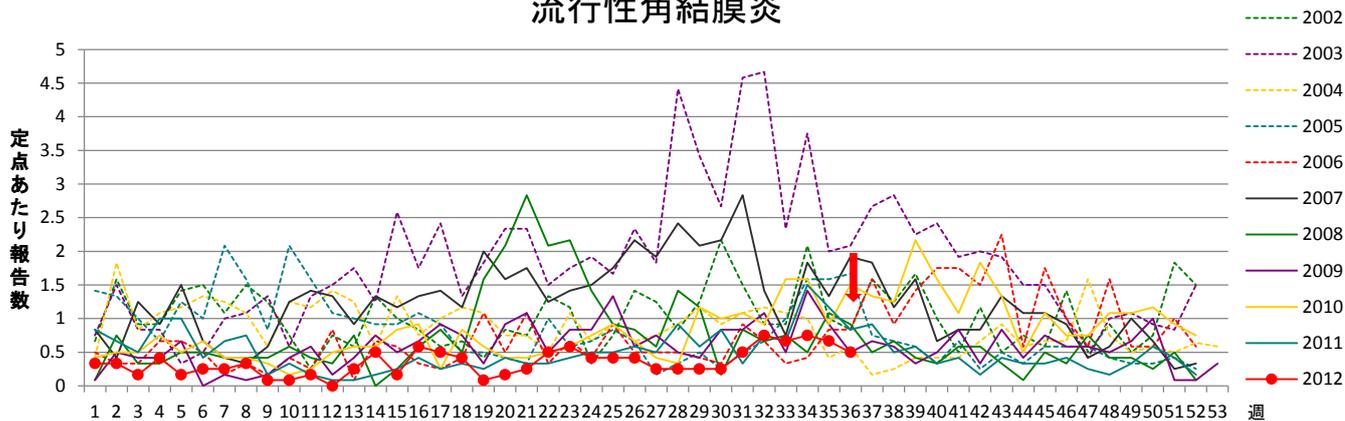
流行性耳下腺炎



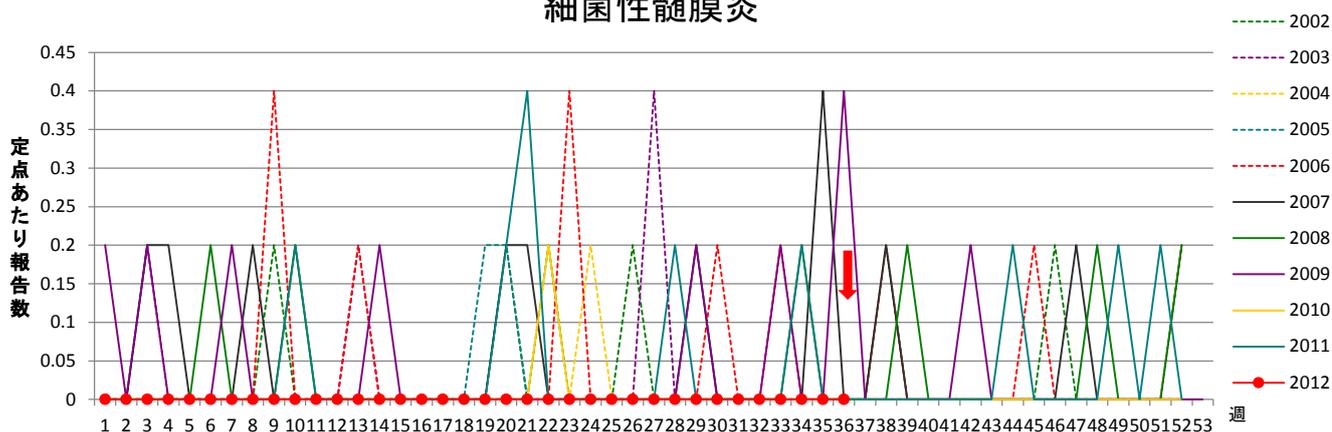
急性出血性結膜炎



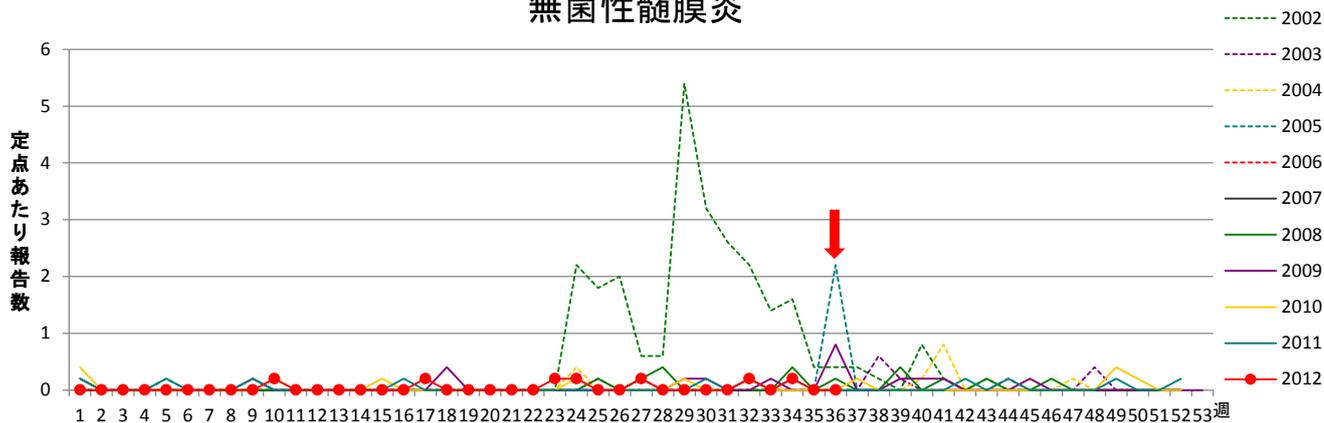
流行性角結膜炎



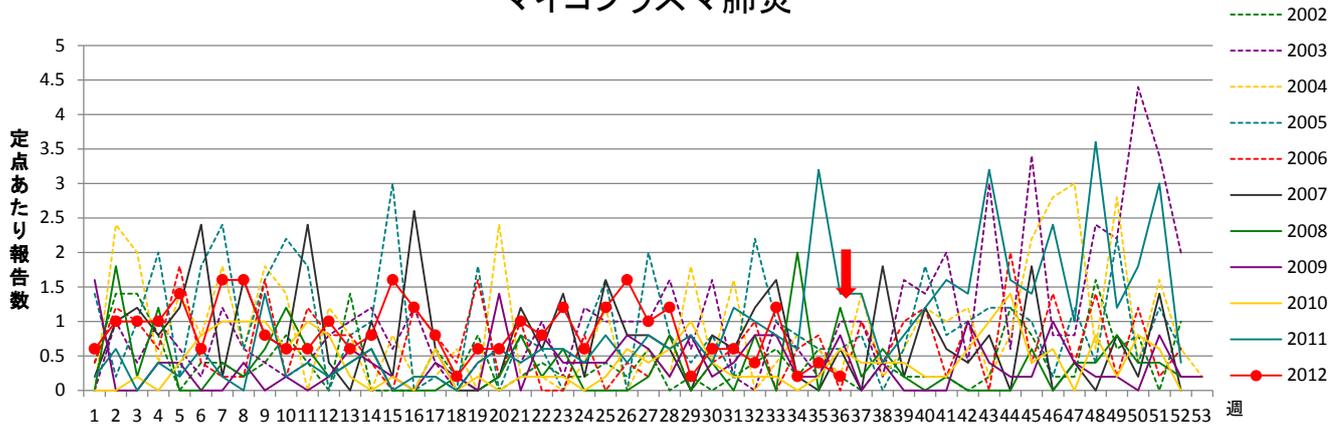
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

